

# 令和2年度 多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン インテンシブコースセミナー

日時: 2020年10月15日(木) 13:00~14:30  
 場所: 学内:兵庫県立大学 明石看護キャンパス(演習室 406)  
 学外:兵庫県立大学遠隔講義室(Zoom)  
 テーマ: 「喪失にともなう悲嘆とグリーフワークの理論」、「悲嘆ケアプログラムの実際」  
 講師: 坂口幸弘先生(関西学院大学人間福祉学部人間科学科教授)  
 受講者: 5名(うち学外1名)  
 主催: 兵庫県立大学看護学研究科 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン代表 内布敦子

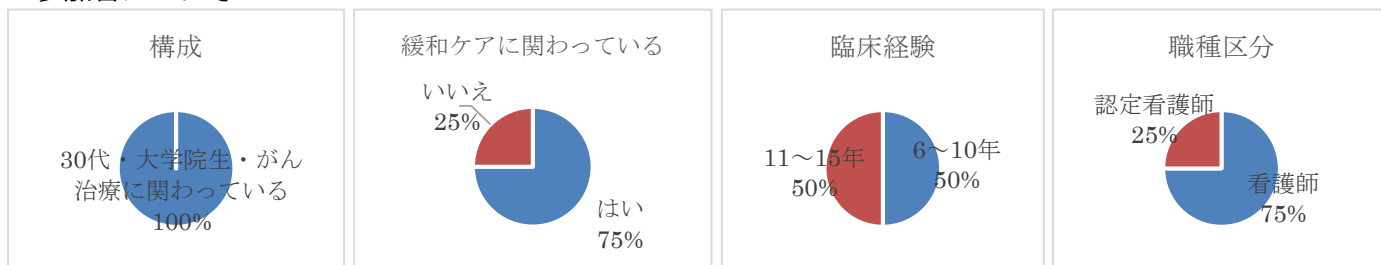


## <概要>

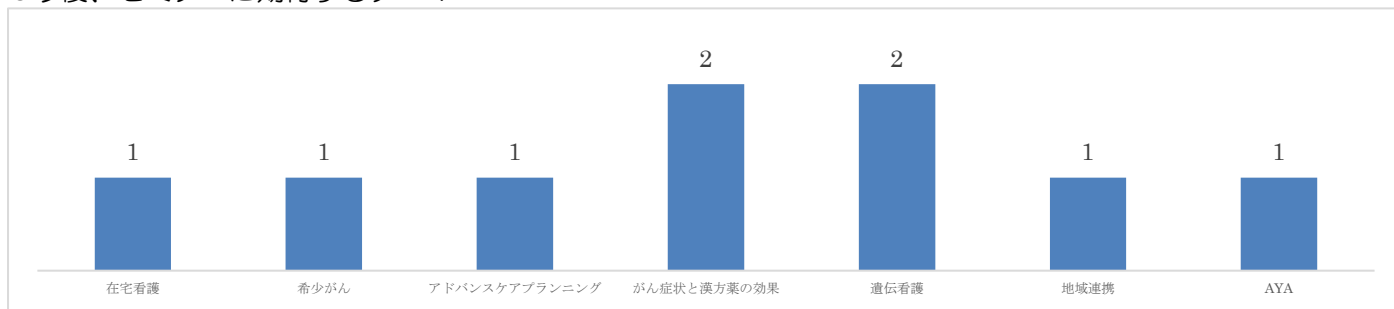
関西学院大学 人間福祉学部 人間科学科教授 坂口 幸弘先生から、がん治療看護論特別講義「喪失にともなう悲嘆とグリーフワークの理論」、「悲嘆ケアプログラムの実際」について、悲嘆(Grief)について近年の動向、定義や診断基準などについてお話があり、看護の立場からどのように関わっていくべきか考える講義でした。様々なグリーフケアの事例について触れ、新型コロナウイルス感染防止対策下におけるグリーフケアなど近々の状況を含め、望ましくない言動、ACPの効用、医療者としての立場の特徴、グリーフケアの目標など具体的に考えることができた貴重な時間となりました。

## <アンケート結果>

### ●参加者について



### ●今後、セミナーに期待するテーマ



### ●参加者からのコメントより

▼今回のセミナーで、あなたが感じたこと、印象に残ったことがあれば自由にお書きください。

- ・グリーフケアの現状や予防的介入の必要性について学ぶことができた。
- ・グリーフケアとして、避けるべき声かけの内容を具体的に示していただいていたが、振り返ってみると、配慮しているつもりでも相手の心に寄り添うような余裕がケア提供者として持てておらず、声かけも上部の内容になっていた事もあったと思う。相手を気にかけていること、聞く姿勢を持って、これからはケアにあたってきたい。参加になる内容を沢山学ばせていただきありがとうございました。
- ・グリーフケアが何故必要なのかを知ることができました。生命の死があっても、社会的な死がないように死の前後からの関わりが重要だと感じました。

▼グリーフケアにおいて、今最も強く感じている課題をお書きください。

- ・オンラインでのケアについて、新しい方策は模索する必要性を感じております。
- ・病院が機能別になってきていることもあるが、ホスピス以外は、退院後のフォローをする、という視点は少ない様に感じる。
- ・急性期病院では、亡くなった後のケアは十分にできないのが現状である。地域と繋がり、ケアができる関係性が必要だと感じている。